

第三成算課處務順序



114
A 2291
3

第三成算課

右府縣

ノ經費及ヒ收入ノ勘定帳簿ヲ分掌整理
シ稅外收入及ヒ經費ノ殘餘ヲ納付セシムル等
ノ事ヲ掌ル其事務ヲ分ツラ十部トス

第一部

東京府

埼玉縣

熊谷縣

千葉縣

椽木縣

茨城縣

該府該縣資用ノ金穀仕拂及ヒ收入金穀等
一切ノ勘定帳簿其他物品有高帳等ヲ規則
ニ照シテ精査勘算シ其收入經費ノ勘定帳

大正十一年四月
侯爵郵寄贈

決算済ノ證書ヲ作り其收入及ヒ經費ノ残
餘ヲ納付セシムルノ順序ヲナス

但收出勘定帳簿ヲ精調スルハ第二部ヨ
リ第十部ニ至ルマテ其順序ハ本又ノガ
シ故ニ以下毎部ハ其廳名ノミヲ挙ク

第二部

神奈川縣

足柄縣

靜岡縣

瀨松縣

山梨縣

岐阜縣

第三部

筑摩縣

長野縣

新川縣

第四部

石川縣

相川縣

新瀉縣

愛知縣

滋賀縣

敦賀縣

京都府

大阪府

奈良縣

第五部

兵庫縣

飾磨縣

和歌山縣

度會縣

堺縣

三重縣

第六部

福島縣

磐前縣

宮城縣

岩手縣

若松縣

水沢縣

第七部

置賜縣

山形縣

酒田縣

秋田縣

青森縣

第八部

高知縣

名東縣

愛媛縣

濱田縣

豊岡縣

鳥取縣

島根縣

第九部

北條縣

田山縣

小田縣

廣島縣

山口縣

小倉縣

大分縣

第十部

佐賀縣

白川縣

宮崎縣

鹿島縣

長崎縣

福岡縣

三瀨縣

右ノ掌ノ事務ヲシテ右部混淆セシメサル
ヲ要ス

事務順序

第一條

一凡ソ出納勘定帳ハ右廳於テ本首ヨリ受領シ

タル一切經費ノ金穀ハ定額常費額外常費臨時費等ノ區分ヲ詳明ニシ實際消費ノ正確ナルト其計數ノ明亮ナルトヲ詳カニスル為メ出納勘定帳雜形及ヒ勘定仕上ニ緊要ナル定規ニ基キ精密調整シラ之ヲ本首ニ送致スルモノトス

第二條

一 稅外收入勘定帳ハ右廳於テ現ニ收入セシ金穀ノ名目及ヒ其計數等ヲ詳明ニシ誤謬遺脱ヲキテ證スル為メ稅外收入勘定帳雜形及ヒ

其緊要ナル定規ニ基キ精密調整シラ之ヲ本首ニ送致スルモノトス

第三條

一 勘定帳及ヒ附屬簿冊ノ種類ヲ掲クル左ノ如シ

金穀出納勘定帳 總括
內記 共

豫備操存金仕訳書

未決算金穀仕訳書

貸渡金受拂勘定帳

稅外收入勘定帳 總括
內記 共

第四條

一 東京府勘定帳ハ每一ヶ月之ヲ區分シ甲月ノ
 分ハ乙月廿日ヲ限り本省ハ送致シ外府縣勘
 定帳ハ每三ヶ月之ヲ區分シ左ノ期程ニ從テ
 該地ヲ發遣スルヲ則トス

七月ヨリ	十月二十日限
九月ヨリ	
十月ヨリ	一月二十日限
十一月ヨリ	
一月ヨリ	四月二十日限
三月ヨリ	
四月ヨリ	七月二十日限
六月ヨリ	

第五條

一 毎歳最後ノ勘定帳
東京府ハ六月分
 各縣ハ四月ヨリ六月マシ

三ヶ
 月分ハ歳費完結ノ期節タルヲ以テ第六條ニ
 掲クル支廳勘定帳編入ノ定期ヲ參酌シ本廳
 ヲ距ル五十里外ニ支廳アル向ハ第四條ニ掲
 ケシ定期ノ外本支廳ノ距離百里ニ付十日ノ
 割令ヲ以テ延期スルヲ則トス

第六條

一 各支廳勘定帳ハ悉ク之ヲ本廳勘定帳ニ編入
 共計ス然リト雖モ遠隔ノ地ニアル支廳ノ分
 ニ至ラハ本廳勘定帳ニ同時ニ編入シカタシ
 故ニ本支廳距離ノ遠近ヲ量リ左ノ期程ニ從

ヲ編入スルヲ則トス

五十里以内ノ地ニアル支廳ノ勘定帳ハ本
廳ノ外ト同一ノ月ニ編入シ五十里外ノ地
ニアル支廳ノ勘定帳ハ毎歲七八兩月分ヲ
本廳七月ヨリ九月マテノ三ヶ月分ニ編入
シ九月ヨリ十一月マテ三ヶ月分ハ本廳十
月ヨリ十二月マテ三月分ニ編入漸次此例ニ准シ
テ編入シ三月ヨリ六月マテ四ヶ月分ハ本
廳四月ヨリ六月マテ三ヶ月分ニ編入セシ
ム

第七條

一 支廳勘定帳ハ前條ノ例ニ準擬シ本廳勘定帳
ニ編入スト雖モ其年ノ勘定仕上ハ其年限リ
區分決算シテ決シテ翌年ノ勘定ニ編入スル
ヲ許サス故ニ歲尾ノ勘定帳ハ本廳ト同一ノ
月ニ編入スルヲ則トス

第八條

一 前各條ニ掲列スル規程ニ循テ出納勘定帳ヲ
本省ニ送致スレハ本省文書課受付掛ヨリ之
ヲ本寮ニ送付ス本課之ヲ受ケテ先ツ其簿冊

調成ノ体裁ヲ檢閲シ誤謬ナキモノハ前三ケ月ヨリノ越高及ヒ茲回三ケ月ノ交付高ト曩ニ出納頭へ出シタル第一號請取證書及ヒ第二號決算未済證書ノ高ト照合シ差謬ナキヲ保シ其高ニ **證書突合済** ノ印ヲ捺シ尚調査了ツテ後決算證書下按ヨリ添付シ第四號算課ニ回致ス同課オヒテハ **追算届済** ノ印ヲ押シテ本課ニ返付ス若シ元受高等誤脱アレハ順序ヲ經テ課長及ヒ寮頭ノ檢印ヲ請ケ受付課其旨ヲ該廳へ達シ再調セシム假令些少ノ數額ヲ

リトモ決テ差違アラシム可カラス

第九條

一出納勘定帳元受高等差違ナキモノハ其消費ノ当否ヲ檢査シ計數ノ多寡ヲ勘算ス其順序ハ次條以下ニ詳カニス

第十條

一官負月俸ハ則テ曩ニ頒布アリシ月俸規則及ヒ右廳ヨリ申告スル官負點陟書ニ照シ每等人負及ヒ支給高ト其緣由等ニ至ルマテ精密ニ調査勘算ス

第十一條

一 一般月俸規則ノ外別ニ允許ヲ得或ハ委任ニ因テ該廳限リ変更ヲ設ケ又ハ之ヲ改正スル等儘之アリ此ノ如キノ類ハ正院又ハ若廳_若ハ委任ヨリ詳悉其事款ヲ本省ニ報告スルモノトス本省之ヲ本寮ニ達スレハ第一成算課ホラ之ヲ受領スルトドス故ニ整調ノ時々主務ノ者其報告ニ準據シテ之ヲ調査勘算ス

第十二條

一 雇入外國人給料及ヒ諸手当金等ハ其雇入或

ハ雇継ヲ許可セシ旨ノ正院令達書及ヒ右ニ附属セル雇入條約書ニ基キ其支給方ノ当否ヲ検査シ計數ヲ勘算ス

第十三條

一 旅費ハ則テ正院ヨリ頒布ノ旅費定則及ヒ補則ニ照シ並旅行巡回其他右種ノ名義ニ就テ支給方ノ当否ヲ稽查シ計數ヲ勘算ス

第十四條

一 右廳於テ旅費日当ノ額ヲ節減シ或ハ変更ヲ設クルノ際本省ニ報告セシモノハ其報告ニ

照シ精密ニ調査勘算ス

第十五條

一 右廳雇外國人旅費ハ現費給與ノ成規ナレハ
官私出途ノ區別ヲ明ニシ其官給ノモメハ費
程ノ当否ヲ精密ニ調査正算ス尤右廳適宜給
與ノモノハ第十四條ニ掲クル如シ

第十六條

一 邏卒給料及ヒ旅費ノ如キハ該廳於テ適宜支
給ノ方法ヲ設ケ而シテ第十一條ニ掲ケシ如
ク之ヲ本有ニ報告スルヲ例トス故ニ如此ハ

其方法ニ基キ給與ノ当否ヲ稽查シ費項ヲ勘
算ス

第十七條

一 家祿賞典祿等ハ主任ヨリ報告スル所ノ祿高
帳ニ照シテ其本額ノ当否ヲ調査正算ス

第十八條

一 社寺通戒給米ハ主任ヨリ報告スル所ノ簿冊
ニ照シテ支給額ノ当否ヲ調査勘算ス

第十九條

一 懲役場百般ノ費用ハ懲役人傭工錢ヲ以テ供

給維持スルモノトス若シ其收入ノ備工錢ヲ以テ充用ニ足ラサルハ之ヲ官給スルノ成規ナレハ官費及ヒ收入金ヲ以テ供給セシ費途ヲモ精細ニ調査勘算ス

但後因投業ノ方法全ク備ハル迄ハ八年三月内務省乙第三十九号達書費途ノ區別ニ照シ調査スルコトトス

第二十條

一修路架橋沿河堤防營築等ニ関スル費用ハ一事業毎ニ分界ヲ明ニシ譬ハ甲ノ事業ハ若

千金ヲ消費シ乙ノ事業ハ若千金ヲ供給スル等則細ノ勘定ヲナスモノトス故ニ其事業ノ分界毎件仕掛ノ当否ニ至ル迄精密ニ點檢ヲ遂ケ而シテ其費程ヲ正算ス

第二十一條

一凡ソ成規ヲル諸般ノ雜給滿年賜金官負宿代等ハ例規沿革本寮ニテ編纂セシ簿冊ニ照シテ其当否ヲ稽查シ計數ヲ勘算ス

第二十二條

一諸物品買上代其他總テ現價ニ就キ供給セシ

モノハ必ラス其需用ノ緣由ヲ并明シ而シラ
其賞額ヲ勘算ス

第二十三條

一臨時交付セシ金穀ハ總テ最前其費用ヲ請求
セシノ際御ノ決判アル回議書ノ副本或ハ内
務省第二類ノ通知書等ニ就テ其因故ヲ詳ラ
カニシ用テ規定額ニ関スル事アリテ最前其費
要再回ノ印ヲ捺セシモノハ其寫了セシ簿書
ニ付テ并明シ或ハ規定額ニ関セテ御ノ達ヲ請
タルモ其内務省第二類ノ通知
書ハ記録簿ノ簿書ニ付テ并照ス而シテ其
消費ノ当否ヲ稽查シ計數ヲ勘算ス

第二十四條

一凡ソ右廳定額金ハ正院ニ於テ之ヲ議定シ其
金額及ヒ内訳等詳悉本省ニ達セシモノナレ
ハ本課於テハ此達書ニ照シテ定額内ノ消費
ヲ并明検査ス若シ夫レ甲定額ノ剩餘ヲ以テ
乙定額ノ不足ヲ補ヒ或ハ官給スヘキ費用ヲ
民費ニ課スル等ノコトアレハ速ニ之ヲ更正セ
シムルノ順序ヲ為ス
但正院ノ許可アルモノハ此例ニアラス

第二十五條

一 各廳ノ經費ハ其賞額ノ元帳ヲ製シテ定額ヲ
元トシ其實償ト殘餘トシ毎三月ニ詳記シ此
帳簿ニ照シテ各科目ノ金額遺拂超過セサル
ヤ否ヲ調査スルコト、ス

第二十六條

一 未決算金穀仕訳帳ハ其決算ニ至ラサル緣由
ヲ稽查シ計數ヲ勘算スルコト、ス
二 各長短ヲ不問東京府ハ毎一ヶ月其他ハ每
三ヶ月月中仕切決算ヲナスノ様規タルヲ以テ
若シ其決算遅延スルコトアレハ其廳ハノ違察

ヲ州シ寮頭ノ檢印ヲ受ケ以テ主務ノ廳ニ推
同督促シ速ニ決算セシムルヲ要ス

第二十七條

一 貸付金穀勘定帳ハ其貸付上返納ノ額トシ國
債寮照合シ同寮主任ノ認印ヲ取テ其当否ヲ明
并シ其計數ヲ勘算ス

第二十八條

一 第十條以下第二十七條以上ニ掲ケル所ハ勘
定帳検査上ニ於テ概子例準ヲ示スノミ凡ソ
各般ノ出納若其成規アリ或ハ定額アリ随テ

検査ノ順序モ亦異同ナキ能ハス故ニ如此ハ
前例ニ倣ヒ若其取規ト定額トニ照準シ精察
ニ之ヲ検査ス

第二十九條

一 勘定帳内訳毎件明細表通計ニ照査シテ差異
ナケレハ正印ヲ押シ合計差謬ナキモ亦正印
ヲ捺ス明細表毎件規格ニ適当スルモノハ
印ヲ押シ計數差謬ナキハ正印ヲ捺ス勘定帳
及明細表共合計ニハ管主者ノ小印ヲ加押ス

第三十條

一 經費ノ内事理明晰ナラサルカ又ハ計算上確
當セサルアレハ毎件其趣旨ヲ附箋ニ詳ラカ
ニシ其長官ニ對シ推問スルヲ文按ヲ草シ課
長及ヒ寮頭ノ檢印ヲ受ケ頭ノ名ヲ以テ該廳
ニ達ス主任官ノ出張セシモノアルハ直ニ
之ヲ推究ス

第三十一條

一 第三十條ニ掲クル如ク推究ノ上其事全ク規
則ニ違反スルモノハ規則第幾條ニ違反スル
ヲ以テ決算ニ立テカタキ旨達按ヲ具シ課長

ヲ經察頭ノ調印ヲ受ケ而シテ卿ノ名ヲ以テ
該廳へ達スルヲトス

第三十二條

一前條ニ掲ケシ如ク決算ニ立テカタキ旨ヲ該
廳へ達セシ上ハ勘定帳總括ヲ始メ内訳明細
表ニ至ルマテ悉ク其決算ニ立タサル金貨ヲ
削除シ再ヒ計數ヲ按查シテ決算ノ額ヲ確定
ス

第三十三條

一各廳長官權外ノ費用ヲ許可ナクシテ仕拂フモ

ハアレハ其顛末ヲ推究シテ第三十一條ニ掲
クル順序ニ從ヒ卿ノ決判ヲ請ケ卿ノ名ヲ以
テ未決算ノ達ヲナス

第三十四條

一税外收入勘定帳ハ出納勘定帳ト共ニ本省ニ
送致スルヲ則トス故ニ其勘定帳及ヒ内訳表
ヲ本省文書課受付掛ヨリ送致スレハ本課之
ヲ受ケ先ツ帳簿調成ノ体裁ヲ點檢シ其金貨
納済ノ分ハ第四成算課ニ回付シテ突合済ノ
印ヲ取り而シテ右其收入ニ付緊要ナル定規ニ

照シテ審査勘算ス
差誤ナキモノハ第九
條ノ例ニ準シテ
檢字或ハ正
字ノ印
ヲ捺ス

第三十五條

一 税外收入勘定帳調査正算了ツテ差違ナキヲ
保シ而シテ本月納付スヘキ額ハ常用準備收
入ノ區分ヲ為シ現金納付ノ回議ヲ付シ
致前本府理財課又ハ國債寮等ニテ既ニ納付
ノ順序ヲ了スルモノハ本條ノ例ニテス
第四成算課ヲ經テ寮頭ノ檢印ヲ受ケ受付課
ヲ經テ本府ニ出シ寮頭ノ決判ヲ請ヒ了ツテ傳
票ノ順序ヲナサシム
本納ノ順序ハ本條ノ如
シト雖モ勘定帳調査完

結ニ至ラサル前其現金ヲ仮納スルモノハ
明治七年十二月二十日布達ノ通タルハシ

但準備金ハ收入スルモノハ國債寮ニ回議
シ寮頭ノ檢印ヲ受ケ
送付シ帳記了ラ送送スルハ直ニ傳票ノ順
序ヲナサシム

第三十六條

一 税外收入金穀常用或ハ準備ハ納付ノ區分ハ
本府於テ決定セシ成規ニ從テ夏并ス其納付
期限ニ至リ未タ納付セサルモノハ達按ヲ作
リ寮頭ノ檢印了シテ主務ノ廳ニ督促ス

第三十七條

一 勘定帳及ヒ明細表等ノ用紙ハ正院ヨリ頒布
アル雜形第七号雜形ノ如シニ違ヒ或ハ他紙ヲ用ユル
等ノトアルキハ順序ヲ了シテ其帳簿ヲ該廳
ニ返却スルトス

第三十八條

一 勘定帳送致期限ニ至リ若シ事故アリテ整理
ニ至リ難キトキ其状ヲ具シ延期ヲ本省ニ申
請スレハ文書課受付掛ヨリ之ヲ当寮ニ付ス
本課之ヲ受ケテ其申請已ムヲ得サルモノト

見トムルキハ即テ承諾セシ旨ノ指令按ヲ具
シ課長及ヒ寮頭ノ檢印ヲ受ケ受付課ヲ經テ
本省ニ出シ卿ノ決判ヲ請ヒ卿ノ名ヲ以テ之
ヲ該廳ニ送スルノ順序ヲナス

第三十九條

一 勘定帳簿ノ内不明了ノ件多クシテ推問ヲ經
ルモ其事理明晰ナラス或ハ會計上ニ於テ錯
雜アリト思慮セシ時ハ検査官負該廳ニ派出
シ其計簿ヲ整理シテ速ニ決算ニ至ラシム其
派出及ヒ出張官負業務ノ制限ニ至ラハ隨時

寮頭ノ委任アルコト、ス

但勘定帳送致ノ期限ヲ過キ未タ送致セザルハ日限リヲ以テ督促シ尚其日限ヲ誤ルハ本條ノ如ク寮員ヲ派出セシムルコトス

第四十條

一方ハ派出セントスルニ方ヲ當時擔理セル所ノ勘定帳簿ハ調査正算ノ済存将来整理ノ胸算等ヲ詳細ニ筆記付添シ之ヲ同僚ニ交付スルコトス

第四十一條

一府縣勘定帳ハ其帳簿ヲ受領セシ日ヨリ二十五日以内ニ調査正算完結ニ至ラシムルコトス

但事故アツテ延期スルトキハ其旨ヲ寮頭ニ具陳スルコト、ス

第四十二條

一右廳ノ勘定帳ハ速カニ整理ニ至ルヲ要スルカ為メニ年度ヲ介ツテ之ヲ擔理セシム故ニ甲年ノ勘定帳精査未タ完了セサルノ際ノ勘

足帳ハ右支廳ニ同一ニ編入スルヲ以テ遠隔ノ地ニ支廳アル向ハ送致ノ期限ニ随ヒ延期ス、乙年ノ勘定帳ヲ送致スルノ期ニ至ル時ハ課中人負ヲ分ツラ之ヲ精理セシメ編ニ滞ナキヲ要ス

第四十三條

一非常過多ノ出費ヲ要スル件アツラ別ニ其精算勘定仕上ヲナスハ臨時検査擔当ノ負ヲ定ムト雖モ其検査ノ法方ニ於テハ一般勘定帳ヲ点檢スルニ異ルナシ

第四十四條

一勘定帳既ニ整理シ了ルモノハ其帳簿ノ餘白ニ勘定仕上相違ナキ旨ノ保證文ヲ記シ寮頭及ヒ課長ト其專掌ノ検査官トノ官姓名ヲ書シ書或第八号而シテ漸次巡閱シ檢印了ラ全ク清帳トナス

第四十五條

一勘定帳送致ノ有無ヲ并知セン為メニ便宜一冊子ヲ製シ時々此冊子ヲ点檢シ定期ニ至リ尚送致セサルアレハ第三十九條ノ順序ヲ以テ之ヲ督促シ勉メテ遅延ノ弊ナカラシメン

コトヲ要ス

第四十六條

一凡ソ勘定帳簿検査上ニ就キ緊要ナル定規成
例及ヒ報告等ハ悉ク之ヲ課中ニ蒐輯シ以テ
檢照ノ根據トナス検査官タル者此記録ニ照
準シ百般ノ出納ヲ調査勘算スル苟クモ差謬
アラシム可カラス

第四十七條

一凡ソ勘定帳簿ヲ検査シ了レハ決算違謬ナキ
ヲ證スル為メ決算證書ヲ製シ以テ交付スル

トス

第四十八條

一右廳經費勘定帳ハ第四十四條ニ掲ケシ順序
ヲ了シテ上帳トシ第三号ノ決算證書ヲ製シ
第十二号雜形ノ如シ此證書ヲ勘定帳ニ付添シ第四成
算課ニ送付ス

第四十九條

一税外收入勘定帳モ前條ニ掲クル順序ヲ經テ
上帳トシ第十号雜形ノ如ク決算證書ヲ製シ
勘定帳ニ添付シテ第四成算課ニ送付ス

第五十條

一凡ソ若府縣所有ノ器具書籍木石其他日用ノ
筆紙墨新炭等一切ノ物品ハ元高及ヒ消耗高
残高等ヲ證明ニスル為メ毎半ケ年ヲ區分シ
第二十一号雜形ニ倣ヒ有高帳ヲ製シ前半ケ
年分ハ一月二十日後半ケ年分ハ七月二十日
限リ該地ヲ發遣シテ存首ニ送致スルモノト
ス

但物品有高帳ハ其物品ヲ類別
磨ハ器具書
籍木石等ヲ
ノ類調成スルモノトス

第五十一條

一物品有高帳ニハ其物品ノ代價ヲ記載シ而シ
テ其代價タルヤ該廳定額金ヲ以テ供給セシ
カ又ハ額外ノ出途タルカヲ區分記載セシム
ルコトトス

第五十二條

一物品有高帳ハ精密ニ調査勘算シテ差謬ナキ
ヲ保シ課長及ヒ寮頭ノ檢印ヲ了シテ受付課ヲ
經テ存首ニ出シ之ヲ御ニ呈ス御ノ覽閱ヲ經
テ後本寮ニ存置スルモノトス

第五十三條

一 若府縣一歳ノ經費ハ前年歳尾ニ於テ翌年一歳ノ該額ヲ擬定シ次ヲ逐テ交付スルモノナレハ若廳ニテ一歳ノ經費勘定完結スルノ後既ニ交付セシ金穀ノ残余アルモノハ還納セシムルヲ則トス

第五十四條

一 歳尾ニ至リ一歳經費ノ勘定ヲ整頓スルニ方リ其現金ハ既ニ拂出シアルモ其年内ニ中仕切ヲ以テ決算完結ナシ難キモノハ其事由顛

未ヲ稟申シ未決算ノ金額ヲ調成シ其旨趣ヲ稟申スルハ明治七年十一月第百四十四号布達ノ雜形許可ヲ經テ其翌年ニ至リ精算ス可キ金額ヲ除クノ外ハ一切納付セシム可キコト、ス

第五十五條

一 残余ノ金穀ハ周年經費ノ決算完結ニ至ルヲ俟ツラ返付セシム可キモノトス然レ氏其残余ハ歳尾ノ勘定帳ニ於テ既ニ判明ナレハ勘定帳ヲ調理セサル前ト雖モ概算ヲ以テ残余ヲ返納セシムルハ明治七年大藏省第二十五

号布達ニ照準ス

第五十六條

一 残餘ノ金穀ヲ返納セシタム其旨ヲ右廳ヨリ稟申スルハ本課於テ歳尾ノ勘定帳ニ照シ該額ヲ查訂シ納付ス可キノ議按指令ヲ作り課長及ヒ寮頭ノ檢印ヲ了シ御ノ名ヲ以テ該廳ニ達シ其傳票ノ順序ヲナサシム

第五十七條

一 成規アル金穀ヲ納付スルニ関スル回議冊ヲ本省中右寮局及ヒ内務省中右寮局ヨリ回付

スレハ本課於テハ該簿冊ニ就テ成規定格ヲ逐ヒ其当否ヲ審査シ其該負ヲ勘算シ課長ヲ經寮頭檢印ヲ了シ受付課ヲ經テ本省ニ出スコト、ス

第五十八條

一 金穀ノ負數考按ノ旨趣等定規ニ違ヒ或ハ計算ヲ誤ルモノアルハ其旨ヲ付箋ニ摘記シ課長ヲ經寮頭ノ檢印ヲ了シ以テ主務ノ寮局ニ返致ス

但内務省 回議ニシテ本省御ノ檢印ヲ要

スルモノハ本文ノ好ク付箋シラ本有ニ出
スコト、ス

第五十九條

一成規例格トハ濟救賑恤其他凡ソ確定ノ規則
アルモノニシテ此規則タル時々ノ公布ニヨ
リ夙變更アルモノナレハ常ニ例規沿革文直
ヲ編集セシニ照査参看シラ檢括セサルヲ要
ス

第六十條

一勘定組ニ関スル條件ノ法按ヲ以テ正院ヨリ

本省へ下議スルアレハ之ヲ当寮ニ付ス而シ
ラ本課之ヲ受ケ其当否ヲ熟議審按シ其妥当
ナルモノハ上答按ヲ作り課長ヲ經寮頭ノ檢
印シ了シ卿ノ決判ヲ請ヒ最前下付ノ法按ト
共ニ受付課ニ付シ本省文書課往復掛ニ送致
セシム答議ヲ淨書スルハ本省往復掛ニ於テ
ラ騰寫セシムルコト、ス其附屬書類ハ編集課ニ

第六十一條

一正院下議ノ法按中若シ妥当ナラサルコトアル
カ又ハ實際ニ於テ支吾スル等ノ件アレハ其

旨趣ヲ具陳シ或ハ其事由ニヨリ更ニ法按ヲ
整理シテ上呈スルコトアリトス

但前條ニ掲クル條件ヲ御ヨリ下議スルコト
アルハ其当否ヲ按シ答議ヲ作り課長シ
經察頭檢印ヲ了シ以テ上呈ス時宜ニヨリ
察頭ノ命ヲ奉シ新ニ法按ヲ調整スルコト
リトス

第六十二條

一 勘定仕上ニ関スル規則中若シ曉解シ難キ條
アルカ或難決ノ件アツテ諮問照會ヲ受ルアレ

ハ本課於テ其事端ヲ詳悉シ回答又ハ指令文
ヲ草ス察頭之ニ決判シ御ノ名ヲ以テ付達ス
其本察ニ對シ諮問スルモノ、如キハ察頭ノ
名ヲ以テ之ニ回答ス

但回答指令等ハ本察於テ之ヲ淨書シ帶付
ノ上課長捺印ノ付箋ヲ以テ本省文書課受
付掛ニ送付ス尤至急ノ文書ハ其付箋中ニ
記載ス可キモノトス

第六十三條

一 凡ソ出納勘定組ニ関スル條件特ニ正院許

可ノミニシキ其旨一紙公布セサルモノハ其
旨本指ハ令達シ本指ヨリ本寮ニ達スルヲ例
トス本指於テ許可セシモノモ亦其旨趣ヲ本
寮ニ達スルトトス故ニ計簿ヲ調査スルノ際
必ラス此達書ヲ以テ準據トス

第六十四條

一右寮局起按ノ回議巡覽ノ帖冊等他日ノ照會
ニ以要ナリトスルモノハ再ヒ本寮ニ回致セ
シメン為メ其議冊本寮名ノ下ニ要再回ノ印
ヲ押スルヲ例トス

但要再回ノ印ヲ押セシ議冊ノ件銘ヲ記ス
ル為メ一冊子ヲ設ケ其件銘及ヒ番号月日
等ヲ鈔録シ再回遲々スルヲレハ之ヲ主務
ノ寮局ハ督促シ回致セシメ之ヲ編集課ニ
送付シラ謄寫セシムルトトス

第六十五條

一調査所勘定帳ニ付属セル書類及ヒ明細表ノ
類ハ勘定帳調査ヲ了シラ後第五或算課ニ送
付スルコトトス
弟シ他日照會ヲ要スルハ有
トキハ同課ニ註ラ覓ム可シ

第六十六條

二 右廳ヨリ毎三ヶ月勘定帳ト共ニ送致スル計
算表ハ本課之ヲ受ケ而テ勘定帳ノ精算高ト
其表面ノ高トヲ照査シ其差異ナキヲ保シテ
之ヲ改正掛ニ回付スルモノトス尤計簿誤査
済ノ上其決算高ニ差異シ生スルトキハ更ニ
此有テ改正掛ニ報知スルコト、ス

第六十七條

一 庫内ノ現貨出入及ヒ紙幣其他公債證書印紙
類製造并ニ銀行預ケ金有高等投視ノ為メ寮
頭ノ命ニ因リ右所へ臨時出張スルコトアリト

ス其詳細ハ本寮事務ノ順序第二十款ニ就テ
見ル可シ

第六十八條

一 課長ハ本課ノ事務ヲ擔当整理スルニ於テハ
寮頭ニ對シ其責任ヲ有ス故ニ一課事務ノ当
否ヲ并論シ其意見ヲ陳述シ又課中属官ノ能
否勤怠ヲ監視シテ之ヲ寮頭ニ稟白スルニ得

第六十九條

一 他ノ課事務ノ滞滯セルニヨリ本課ノ事務上
ニ於テ障礙ヲ生スル等ノコトアルトキハ該

課ニ對シ速ニ督促スルヲ要ス

第七十條

課中官負分掌日々處弁スル所ノ事務ハ右自

其概要ヲ日録ニ採記シ形第三十号雜其翌日ニ

日ヲ限リ之ヲ課長ニ出スヲ例トス課長閱了

シラ又之ヲ合纂シ而シ一課ノ月報トナシ形第九

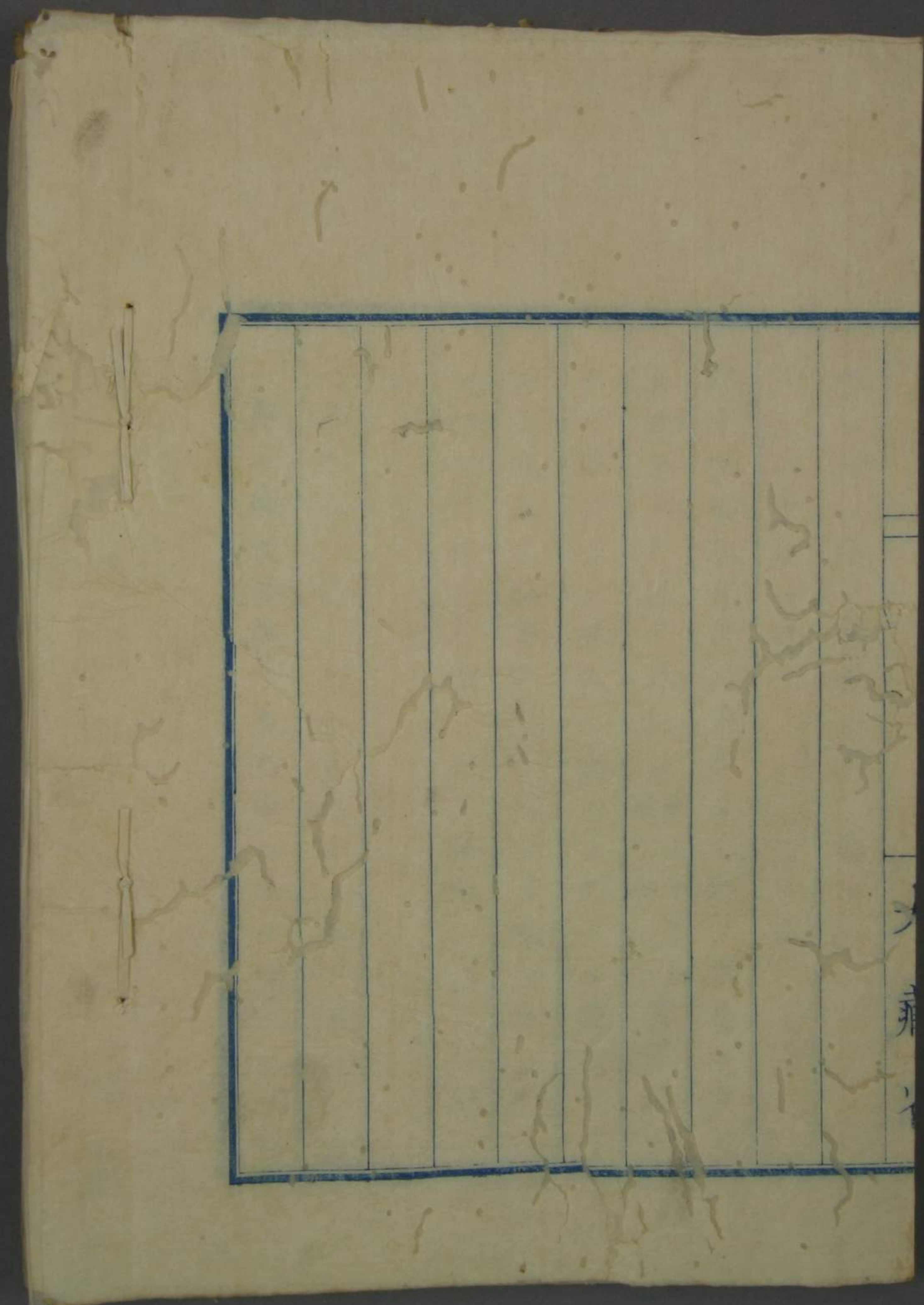
号雜同五日ヲ期シ之ヲ寮頭ニ出スヲ則ト

ス

但年末ノ分ハ十二月十日ヲ限リ課長ニ出

セハ課長合纂シラ同廿三日ヲ期シ之ヲ寮

頭ニ出スコト、ス



天
癸
之